



校長室だより

令和5年度
9月26日
NO. 24

天高く、みんなの思いが膨らむ2学期

コロナ感染症の対応が緩和され、今まで行われなかった様々な活動が行われるようになってきました。運動会や盆踊りなどもみんなで行うことができ、本年度は学区の敬老会も、9月16日に秦梨小学校の体育館で行われました。いつも校長室に入られる秦梨出身の方々は、昔の秦梨小学校のことをよく話してくれます。「昔は子供が



100人以上おった」「古い木造の校舎と集会室があった」など、本当に秦梨小に思い入れがあることが伺えます。それが、地域を愛する心ではないかと感じます。敬老会当日、アトラクションでは、子供たちの全校合唱を、敬老者の方々が温かい笑顔でうなずきながら聞いてくださいました。普段、あまり会ったり、話をしたりすることができないお年寄りとのふれあいを、(本当にわずかな時間でしたが) 感じる事ができたように思います。本来お祝いをする側の小学生が、優しく励まされたような気がしました。

24日には、河合中学校の体育大会を見させていただきました。今年の3年生は、他学年より少なく20人にも満たない人数でしたが、様々な面で、学校の中心という自覚をもって、体育大会を引っ張っているという印象を受けました。レクリエーション種目のバージャンプでは、3年生みんなで円陣を組み、気合を入れて種目に臨みました。3年生の気合はやはり、学校中につながります。学校中を盛り上げる、3年生にはそんな力があるように感じます。こうした学校やクラスを盛り上げようという気持ちは、学校や仲間を思う気持ちの表れでもあります。運動が好き・嫌いという個人の思いをこえて、頑張ったり、楽しんだりする、そうした気持ちを、小学校でも大事にしていきたいと思いました。

小学校でも、「6年生は学校の顔である」とよく言われますが、それは6年間、共に長く過ごしてきた仲間や学校への「思い」が一番こもっているからでもあります。そして、6年生としての行事は、6年生にとって小学校生活最後の行事にもなります。それは、学校に残る在校生たちへの、「思い」の引継ぎの行事でもあります。さらに今年は150周年記念。そうした、いろいろな意味を持った今年の学校行事で、6年生としての最後の姿が見られる、そして学校全体で盛り上がる、そんな機会をととても楽しみにしています。

2学期は、「行事の秋」「スポーツの秋」と言います。これから部活動の大会もあり、学芸会も修学旅行もあります。もちろん、運動が苦手な子も、学芸会で大きな声を出すことが苦手な子もいるかもしれませんが、けれど苦手でも、小さな声しか出なくても、「チームのために頑張りたい」「みんなでいい劇を作りたい」みんなで頑張って楽しめるのも、行事のよさであり、価値でもあります。こうした行事を通して、みんなに、秦梨小学校をより好きになってほしいと思います。

